

《担当者名》 澤田篤史 as-51@hoku-iryo-u.ac.jp 多田菊代

## 【概要】

代謝障害系疾患、泌尿器障害系疾患、がんなどの基礎的病理や疾患概念、さらにそれらの疾患に罹患した対象者の障害像を理解する。また、内部障害系の各種疾患における理学療法評価と障害に対するリハビリテーションアプローチを学修する。

## 【学修目標】

### 一般目標

代謝障害系疾患、泌尿器障害系疾患、がんなどについて各々の具体的特徴とその理学療法評価、アプローチ、リスクマネジメントを理解する。

### 行動目標

1. 代謝疾患・障害の重症度評価と理学療法評価およびアプローチを説明することができる。
2. 腎疾患・障害の重症度評価と理学療法評価およびアプローチを説明することができる。
3. がんリハビリテーションの目的と理学療法評価およびアプローチを説明することができる。
4. 女性のライフステージ別に理学療法士が関わる可能性のあるウィメンズヘルス分野の問題を説明できる

## 【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	糖尿病の病態と理学療法の目的	・糖尿病の病態と理学療法の目的・方針 ・急性合併症と慢性合併症、リスク管理	澤田篤史
2 }	糖尿病に対する理学療法	・糖尿病に対する運動療法の効果 ・運動療法の適応・禁忌	澤田篤史
3			
4	腎疾患に対する理学療法	・慢性腎不全の病態と理学療法の目的 ・透析療法とその合併症 ・腎臓リハビリテーションの適応・効果・禁忌	澤田篤史
5	がんリハビリテーション総論	・がんの疫学と病態 ・がんリハビリテーションの目的と理学療法アプローチ	澤田篤史
6	疾患別がんリハビリテーション	・乳がんに対する理学療法	澤田篤史
7	疾患別がんリハビリテーション	・終末期がん患者への関わりと緩和ケアチーム内での理学療法士の役割	澤田篤史
8	ウィメンズヘルスと理学療法	・ウィメンズヘルスとは何か ・女性の疾患・症状に対するリハビリテーション	多田菊代

## 【授業実施形態】

### 面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

## 【評価方法】

定期試験70% 授業内確認テスト30%

定期試験は返却しないが、個別での問い合わせに対しフィードバックを行う。

## 【教科書】

解良武士、椿淳裕編 「Crosslink 理学療法学テキスト内部障害理学療法学」 MEDICAL VIEW 2019年

## 【参考書】

美津島隆 監修 「リハスタッフのためのイチからわかる臨床検査値活用術」 MEDICAL VIEW 2018年  
 ウィメンズヘルス理学療法研究会 編集 「ウィメンズヘルスリハビリテーション」MEDICAL VIEW 2014年  
 医療情報科学研究所 編集 「病気がみえる 糖尿病・代謝・内分泌 第5版」 メディックメディア 2019年  
 医療情報科学研究所 編集 「病気がみえる 腎・泌尿器 第3版」 メディックメディア 2019年  
 宮越浩一 編 「がん患者のリハビリテーション-リスク管理とゴール設定」 メジカルビュー社 2013年  
 安部能成 編集 「終末期リハビリテーションの臨床アプローチ」 MEDICAL VIEW 2016年

## 【備考】

manabaを用いて確認テストを行う。

**【学修の準備】**

1. この授業は、2年生までの解剖学、生理学、運動学、運動生理学、内科学、病理学などを基盤に行われるものであり、学修の準備としては毎回の授業に合わせて十分復習をしてから講義に臨むこと（80分）。
2. 授業の冒頭でその日の授業内容に関する確認テストを行うため、十分な予習をして講義に臨むこと（80分）。
3. 復習は授業資料だけではなく、教科書や参考書を活用して毎回の授業に関連する内容を十分理解すること（80分）。

**【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】**

（DP3）理学療法士として必要な科学的知識や技術を備え、心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、地域包括ケアの視点から適切に対処できる実践的能力を身につけている。

**【実務経験】**

澤田篤史（理学療法士）、多田菊代（理学療法士）

**【実務経験を活かした教育内容】**

内部障害領域での理学療法士としての実務経験を通して得た知識・技術等を活用し、実践的な教育を行う。